

第5回 やるべきこと

皆さんにとってやるべき事は何ですかと聞かれたら、おそらく高校生、中学生、小学生であれば勉強と答えると思います。で、それは何のためにと言われたときには結構迷うんじゃないかなと思います。多くの皆さんにとって最も大きく頭の中を占めているのは、学校で良い成績を取ることだと思うからです。その他にも部活が最も大事だと思っていたり、その他にもやりたいということがあって、それが大事だと思っている人たちもいると思います。

私がここで言いたいのは、やるべき事というのが、結局第1回目のブログのところでお話をしたように、人間が長生きすると言う事について考えると言うことではないかなと思っています。第1回目の時に長生きをするためには、食物と医療とそして厳しい労働を長く続けられないことだと言いました。また、長生きが続けられないような危険を取り除くことだとも言いました。私は人々がやるべきことだと思っているのは、このように長生きにつながることをやることだと考えています。

そのためにはもちろん知識が必要ですから勉強も必要なんですね。体力も必要だから部活でトレーニングをして鍛えると言うことも大事です。けれども、それは何のためかと考えたときに、皆さんにはやるべきことを実現するためだと思ってもらうのが良いかなと思います。

私がこのようなことを考え始めたきっかけですが、以前慶応大学の教授をしていた

頃に環境問題についての講義を持っていました。この頃は既に温暖化の問題は専門家の間では既に大きな問題になっていました。しかし現実にはその影響については、まだ明らかに出てきてはいませんでした。このような状況で温暖化のことを教えるのは難しいなと考えてきました。それと同時に私がなぜ環境問題を研究しているかということも一緒に考えるようになりました。

話は遠くさかのぼります。1970年にその頃世界を動かしていたような重要な人たちがローマに集まってローマクラブと言うものを作っていました。ここで話し合われたことの中に将来の地球はどうなるんだろうかと言うテーマがありました。たくさんの議論がされた中で、将来、地球のエネルギーがなくなってしまうのではないかとの議論がありました。私は仙台で生まれましたが、小さい時から寒がりでした。ちょうど私が大学院に入学する頃に、このローマクラブの話し合いの結果がテレビなどで報道されました。寒がりな私は将来エネルギーがなくなってしまうことにとても驚き、これをなんとかしたいと思いました。思ったら何かを言うのは私の性格です。それで少し経ってからはなりますが、1970年の終わりごろに電気自動車の研究を始めることにしました。電気自動車はほとんどの人がとても実用になる乗り物ではないと思っていました。しかも、エネルギーはこれまでのガソリン自動車などよりもたくさん消費するのではないかと思われていました。ところが実際のエネルギーの消費を計算してみると、ガソリン自動車よりもずいぶん少ないことがわかりました。これが1

つの大きなきっかけで私は電気自動車の研究をすることになりました。

そして 1988 年にアメリカで温暖化の問題が大きく取り上げられ、そしてこれが世界の専門家の中に広がっていきました。私は温暖化の問題とエネルギーがなくなると言う問題は同じことだと思っています。このことから私にとって電気自動車を実現しようと思うことと、温暖化を解決しようと思うことは同じことになると考えていました。

今日の話の最初に戻りましょう。やるべき事は何かでしたが、私にとってやるべき事はエネルギーをできるだけ使わない電気自動車を作ることになります。



2006 年 当時の小泉首相が試乗した時の Elicia (エリーカ)

